

終戦から五十七回目の暑い夏。当時の日本人は私を含め、その日その日を生き抜くのに精いっぱいだった。その延長で二十一世紀まで来てしまっ

私の履歴書

司 憲 庵 久 栄
じ けん あん ちく 栄

①

た。原爆投下後、焼け野原と化した広島。都市焼失と文化炎上。インタストリアル・デザイナーを志した原典として、広島の焼け跡は常に私の脳裏によみがえる。

海軍兵学校生だった私は終戦を山口県海軍防分校で迎えた。校庭で玉音放送を聞

いたが、すぐには事態を理解できなかった。復員が始まった。我々は私物をまとめ、隊伍を整えて防府駅から無蓋車の復員列車に乗った。

父が住職を務める寺のある広島は防府から近く、広島駅に着いたのは真夜中だった。駅は建物の外側だけが残っていた。駅前には人々の気は全くなく、青白い燐が燃えていた。

廃虚の中 浄土を見る

「モノの心生む」我が道自覚

初めて見る凄惨な光景だ。

高性能の新型爆弾が広島に落とされたと聞いていたが、こんな悲惨な事態は想像もしていなかった。帰りを福山

に近い母の実家に変えたが、そこで初めて二歳年下の妹、子の死を知った。原爆が落ちた時、母と弟と一番下の妹は

買い出しに行っていて命拾った。爆心地から二、離れた寺にいた父は被ばくし、後遺

症で一年半後に亡くなった。

昌子は当時、広島女子高等師範付風山中高女二年生で、

今の平和記念公園の所で強制疎開作業に従事していた。母

によると「昌子は『エクワン、エクワン』と言って死んだら

いい」という。遺体を焼いた場所に『エクワン』という標

標が立っていて、妹が『エクワン』と言ったのを、名前を

跡でたらずんでいたら、夕方、不思議な光景に遭った。

夕日が差してきた瞬間、それまでの地獄絵だった風景が

青色に染まって極楽浄土に変わらしたような感じがした。

平清盛は瀬戸内の夕日に魅せられて、秀麗な厳島神社を造

営したと聞く。美しい瀬戸内

とが自分の道であると自覚した。モノにも独自の世界がある。モノを作ることはモノの心を生むことだ。

私はこの後、東京芸術大学の同志と共にインタストリアル・デザインという新分野に

進んでGKデザイン機構を創設、卓上醤油びんから秋田新

幹線「こまち」まで広範な製品のデザインを手がけるが、道

具世界を征服することとが使命だと悟るようになった。

インタストリアル・デザインは、工業的に大量生産される生活用品を安全で使いやすく、かつ美しいものにデザインする作業である。モノを通じて人に高

貴さや生きがいを与えていくモノ作りの道だ。特に戦後の日本には新しい生活文化への改革を意味した。

衆生済度は仏の道だが、私（インタストリアル・デザイナー）はこの時、モノを済度するこ

問いた。

衆生済度は仏の道だが、私

はこの時、モノを済度するこ

問いた。

衆生済度は仏の道だが、私

はこの時、モノを済度するこ



著者の最近の姿

とが使命だと悟るようになった。

インタストリアル・デザインは、工業的に大量生産される生活用品を安全で使いやすく、かつ美しいものにデザインする作業である。モノを通じて人に高

貴さや生きがいを与えていくモノ作りの道だ。特に戦後の日本には新しい生活文化への改革を意味した。

衆生済度は仏の道だが、私

はこの時、モノを済度するこ

問いた。

衆生済度は仏の道だが、私